

本格的な人口減少社会への突入 求められる地方創生

時代の潮流

人口減少社会へ対応した 新たな社会システムへの転換

今、日本は急速な人口減少と少子化、高齢化の問題に直面しています。特に生産年齢人口の減少が進み、高齢化率は2050年には約4割と世界で類を見ないスピードで超高齢社会を迎えると予測されています。これにより、産業の担い手の減少、消費縮小による経済の衰退、社会保障費の負担の増大等、私たちの経済や暮らしへの大きな影響が懸念されます。

これらへの対応として、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が施行されました。人口減少等の克服に向け、『「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立し、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。』ことを目指し、国を挙げて地方創生の取り組みが進められています。

加えて、少子化・高齢化に対応しながら、経済成長を支える担い手の確保に向け、女性や高齢者が働きやすい環境づくりに向けた改革が進められています。地域経営に関しては、縮小する財政の中、必要な住民サービスを提供するため、住民自治に基づく地域自治の進展、自治体間での連携の動きなどが見られます。

本格的な人口減少社会へ突入する中、これらへ対応した新たな社会システムへの移行が我が国全体の大きな課題となっています。

成熟化社会へ対応した 豊かな暮らしへの要求の高まり

人口減少社会の到来、東日本大震災や自然災害の経験などを背景に、日本人の価値観は、経済性・効率性を重視する「成長志向」から、人とのつながり、多様性、地域性などを重視する「成熟志向」へと変化しています。

近年、人とのつながりや自然との触れ合いを重視し、都市から地方へ移り住む人が増えているのもその現われといえます。

また、南海トラフ地震、首都圏直下型地震などの大規模地震の発生が予想される中、安全・安心に対する意識の高まりが見られます。

つながりとイノベーションによる 新たな仕事づくりへの期待

経済のグローバル化が進展する中、国際取引環境は更なる変化が予想されます。

人口構造が変化する中、日本が経済成長していくためには、国外需要を積極的に取り込むことに加え、技術革新を含む生産性向上が重要な役割を担います。今後、IoT（※）、ビッグデータ、人工知能、ロボット・センター等の分野で技術革新の加速が予想されます。

これらの機会をとらえ、地方創生のエンジンとなる「しごと」を生み出すことが求められます。

松江市が直面する課題

人口減少社会へ対応した 持続可能な活力ある松江市の実現

松江市の総人口は2000年をピークに緩やかな減少局面へと入りました。

2016年の総人口はおよそ20万人、高齢化率は28%です。そして、現状のまま推移すれば、2040年には17万人、2060年には13万人まで減少すると予想されます。

2015年度に策定した「松江市まち・ひと・しごと創生第1次総合戦略（総合戦略）」では、2060年までに人口減少を食い止め、人口維持を図っていくこととし、2060年の目標人口を約18万人としました。この実現に向け、毎年2,000人の子どもの誕生、また、毎年270人の人口の社会増の2つの挑戦をスタートしたところです。

しかし、直近の人口動態においては人口の社会減少が大きく進行するなど、依然として厳しい状況が続いています。

人口減少へ対応し、持続可能な松江市をどのように実現するのか？そのことが、大きな課題となっています。

今後、総合戦略に示す目標の実現に向け、市民と危機感を共有し、市民と行政が一緒になって取り組みを推進することが求められます。

広域振興に向けた リーダーシップの発揮

松江市は、島根県の県庁所在地として、政治、経済、文化、教育の中心的役割を担います。そして、全国に先駆け、少子化・高齢化・過疎化が進む島根県の中において、県外への人口流出を抑制する「ダム効果の発揮」が期待されています。

このため、中核市への移行などを進め、より質の高い行政サービスの提供と、住みやすさの向上につとめることが求められます。

また、多くの地域課題、特に人口減少への対応は、各自治体が共通して抱えるものではありません。となり同士で人口を奪い合うのではなく、互いに連携・協力し、全体の人口を増やしていくという視点が大切です。

現在、松江市では、島根県・鳥取県の県境を越えた自治体間の連携により中海・宍道湖・大山圏域の課題解決に向けた取り組みを進めています。松江市は、島根県、圏域の中心都市としての自覚を持ち、リーダーシップを発揮しながら、圏域全体の発展を先導することが求められます。

大切にする姿勢

松江を超える、松江をつくる。

～Over the Matsue～

今後5年間のまちづくりは、めざましい勢いで変化する社会環境へ対応しながら、松江市が直面している人口減少社会という困難へ正面から対峙していくことが求められます。

その困難への挑戦をわたしたちは二つの方向から進めたいと考えています。

ひとつは、自らの可能性に向き合い、自らを超えること。

松江市には、全国に誇るべき素晴らしい資源や文化があります。そして、多くの市民が、松江を形づくる様々な要素を大切に思い、このまちで暮らすことに誇りと愛着を持っています。

しかし、温和といわれる松江人気質のためか、私たちは、これまで松江の良さ、魅力を感じながらも、そのことを積極的に表現してこなかったのではないのでしょうか。

私たちは、松江市がもつ強みや魅力を磨き、発信することを通じて、新たな価値を創出し、その共感の輪を広げることには挑戦します。

もうひとつは、可能性を広げるために地域や組織の垣根を超えること。

経済のグローバル化はますます進展し、日本全体の人口減少はさらに進行すると予想されます。この結果、対応すべき問題が増加、複雑化する一方で、行政サービスに必要な財源は減少し、十分な対応ができなくなります。

これらに対応するためには、自治体や、組織の壁を越え、しなやかに連携する姿勢が今まで以上に重要になると考えます。

私たちは、地域間、組織間の垣根を超え、互いの可能性を認めあい、高めあうための関係づくりへ挑戦します。

これらの取り組みは、松江が持つ可能性を信じ、外との壁を越えながら、今を超える新たなまちづくりへと挑戦することです。

「松江を超える、松江をつくる。」

私たちは、上記を今後、5年間のまちづくりにおいて大切にする姿勢として設定します。

基本理念

共創・協働のまちづくり

まちづくりの主役は、ここに暮らす市民です。何をかうか、どこに行くか、一人ひとりの判断の積み重ねにより、今の松江市ができ、これからの松江がつけられると考えます。

この先のまちづくりは、松江市が目指す姿を市民、企業、行政がしっかりと共有し、それぞれが自らの問題として必要な取り組みを進めることが求められると考えます。

今後、5年間のまちづくりにおいては、市民、NPO法人、市民活動団体、企業と市と企画段階から知恵を出し合い、共に実践する「共創」の理念により推進します。

組織や立場の壁を越え、対話により信頼関係を深めながら、それぞれの知識や経験を十分に活かして「協働」することで、松江らしい新たな価値を創出していきます。



◎松江市における「共創」の考え方の5つの特徴・ポイント

- 1・市民とゼロベースから議論、日常のおつきあいを大事にパートナー関係づくり
- 2・課題、弱みをプラスに変える逆転の発想
- 3・危機感を共有し、20年後を見据えた取り組み
- 4・ふるさと松江への愛、誇りが原動力
- 5・松江の資源を生かした「おもてなし」力向上のまちづくり

将来像

松江市は、京都府・奈良市とともに国際文化観光都市に指定され、豊かな歴史、風光明媚な景観とともに、お茶や和菓子などの文化が息づく、豊かな暮らしがあります。

また、神話の世界を現代に伝える地形や神事は、この地が日本誕生のなりたち重要な役割を果たしたことを伝えるもので、松江のまちを語る上で重要な意味を持ちます。

私たちは、松江市が持つ全国に誇るべき魅力や価値を活かし、発信することで、松江の価値に共感する人の輪を広げることができると考えます。

そのためには、まず、この地に暮らす市民自身が、豊かで多様な地域資源と一体となったこの地での暮らしを楽しみ、誇りを持つことが重要だと考えます。

その上で、松江の資源や魅力を活用した新たな「しごと」をつくり、松江が持つ価値へかかわる人の輪を広げていくことが大切だと考えます。

また、隣接するまちの資源や魅力にも向き合い、互いにそれらを認め活かしあうことで、この地での暮らしの豊かさ、楽しさをさらに引き上げていくことができます。

私たちは、市民、企業、行政など、様々な主体が自らが持つ可能性への挑戦を積み重ねることを通じて、松江に住む人、松江に関わる人が、松江とのつながりを大切にし、より深めたいと思ってもらえる魅力あるまちに高めていきます。

そのことから、住む場所、働く場所、学ぶ場所、訪れる場所として「松江が良い」という人の輪を広げていきます。

基本目標

1 人を大切に育てる ～若者に選ばれるまちへ～

松江の未来を拓くのは、新たな可能性に挑戦する若い力です。

次代を担う子ども達や若者が、学び育つ中で大きな夢を描き、その実現にチャレンジできる環境整備に取り組みます。

また、年齢、性別に関わらず、誰もが活躍できる環境づくりを進めることで前向きな風土を醸成し、より多くの若者を惹きつけていきます。

2 個性の発揮と広域連携で輝く ～企業・観光客に選ばれるまちへ～

持続可能な松江市の実現に向けた最大の課題は、暮らしを支える産業を強くすることです。

松江市が持つ魅力や資源、地域課題解決を仕事（稼ぐ手段）へとつなげていく取り組みを進めます。

異業種連携、圏域連携を通じて新たな産業を育成します。

3 誇りと愛着を生む ～市民・交流者に選ばれるまちへ～

恵まれた自然環境のもと、松江に誇りと愛着を感じ、生き活きと暮らす市民の姿が、他地域の人を惹きつけます。

松江市に暮らす市民が松江の魅力や特徴に対する理解を深め、それを楽しむことができる環境づくりに取り組みます。

松江暮らしの魅力を発信し、松江の持つ魅力や価値に対する共感の輪を広げていきます。

4 安全に安心して暮らす ～あらゆる世代に選ばれるまちへ～

未来に対する希望は、安心して暮らせる生活環境が基礎となります。

医療・福祉環境の充実、健康づくりの推進、災害に強いまちづくりを推進します。

時代に適応した効率的・効果的な行財政運営を推進し、市民サービスの向上に努めます。

基本目標の実現に向け 推進する施策

